# 地獄極楽の増築　　京都府

むかし、長さんという人がいました。あるとき、長さんは、ひどい風邪をひいてしまいました。そして、とうとう、あの世へ行ってしまいました。

閻魔さんの前に出ると、閻魔さんは、

「おまえは、どういうわけでここに来た」とききました。

「風邪をひいて来ました」と、長さんがいうと、閻魔さんは、

「なに、風邪だと。風邪くらいでこんなところに来たのか。このごろ交通事故がふえて、死んでくる者が多くて、地獄も極楽も満員で入るところがない。増築するまで帰っとれ」といいました。長さんは、

「けれど、閻魔さん、せっかくここまで来たので、地獄や極楽がどんなところか見せてください」とたのみました。けれども、閻魔さんは、

「それは見せられん」といいました。長さんは、しかたなくこの世にもどって来ました。

長さんが、ふっと目を開けてみると、おおぜいの人がまくらもとにすわって、心配そうな顔で長さんをのぞいていました。長さんは、

「わしは、まあ、閻魔さんのところに行ってきたぞ。けど、閻魔さんが、地獄も極楽も満員だから帰れといったので、もどって来た」といいました。

長さんは、しばらく元気にはたらいていました。けれども、やがて大きな病気をわずらって、死んでしまいました。長さんは、今度は、もどって来ませんでした。村の人たちは、

「今度は、地獄も極楽も増築がすんで、長さんも入れてもらったようだな」といいあいましたとさ。

おしまい

村上郁再話

資料『季刊民話1』民話と文学の会